



No.112

「GOTO オータム」

窓の市政

在職歴代最長の安倍首相が体調不良により突然辞任表明され、その後任として

9月16日に菅官房長官が第99代の首相に指名され、国民のために働く内閣を組閣。また、公明党の山口代表も再任され、連立政権の下、コロナ対策と経済回復に向け始動しました。

時を同じくして国民民主党などと合流した野党第一党の「立憲民主党」が新体制・新代表の下、政権奪還に向けスタートしましたので国政の動向が注目されるところでありますが、衆議院議員の残任期間が1年余りであることや今後の政治日程や国家的行事のスケジュールなどを考えますと、コロナ

禍ではありますが早期解散も予想されるころであります。

イベントやスポーツの自粛制限も収容人数の見直しや開催内容を工夫するなどして徐々に緩和されつつあります。学生スポーツにおいても高校では野球大会を「甲子園交流試合」として開催。各競技会でも趣向を凝らした中で開催されつつあることに喜びと安堵感を覚えますが、小・中学生の大会開催はまだまだハードルが高いようです。そのような中、私も顧問である千葉県剣道連盟庶務支部では、大会への出場機会を失った小・中学生のために、役員の方々が感染予防対策を講じた上で「匝瑳支部設立70周年記念大会」の冠をつけた新たな大会を先月末に開催し、少年少女剣士たちへ夢と希望を与え、良き

思い出づくりの場を作っていたに敬意を表するものであります。

また、今月より「GOTOトラベル」に東京が追加され、さらには25パーセントお得になる「GOTO イート」も始まり、観光需要と経済再生に向け大きく舵が切られました。本市におきましても、9月に飲食店を含む市内店舗で利用できる「地域応援クーポン券(1万円分)」を全世帯に無料配布し、さらに今月は商工会と連携し、20パーセントお得な「プレミアム付共通商品券」の発売も予定しております。

コロナ禍にあっても四季は巡ってまいります。スポーツ・行楽・食欲の秋。感染予防に努めながら「GOTO オータム(秋)」へ「GOTO GO!」

匝瑳市長 太田安規

木積を歩く

箕と伝説

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、今春から市内でもイベントの中止が相次ぎ、その一つに第20回「おせん様のふじ祭」があります。

豊栄地区木積では、江戸時代から農具の箕が作られ、大正期から昭和30年代まで周辺集落を含め約1300戸、年間約8万から13万枚が製作されたとされます。

昭和30年代以降、農業の機械化で需要に変化が

見られ製作者も減少、平成17年ごろには4、5人で年間500枚ほどの製作になったと記録されています。

平成21年3月、「木積の藤箕製作技術」が国の重要無形民俗文化財に指定されました。

およそ300年前、木積村に箕作りの技術を伝えたのは、加納おせんという女性とされ、この伝説をもとに木積箕づくり保存会・ふじの会がイベントとして

「おせん様のふじ祭」を開催しています。

木積の集落は、1300年代中ごろに

まつられたと伝わる白山神社と龍頭寺を中心に成り立っています。龍頭寺境内墓地におせん様の墓石



龍頭寺境内にあるおせん様の墓石

匝瑳探訪 173

があり、1735(享保20)年に亡くなったことが知られます。

なぜ、おせん様が村内に箕作りを広めたのでしょうか。木積村は江戸時代初めから明治維新まで260年ほど旗本堀氏が支配していました。稲作中心の農村に、領主が副業として箕作りを奨励したものと考えられます。それを裏付ける資料が見つかっていませんので、想像をたくましくするかありません。

堀氏は他に貝塚村(豊栄地区)と米倉村(中央地区)の一部を支配しましたが、米倉村では村内の沼地で材料となるイグサが取れたため、編みガサ製作が行われたことが、1838(天保9)年の記録に見られます。

昭和30年代から箕作りを目にしてきた筆者は、文化財指定と技術の伝承には感慨深いものがあります。

(市文化財審議会委員・

依知川雅一)

関秘書課広報聴班

☎73・0080

文芸コーナー

短歌

依知川雅一 推薦

青空を支えるごとくけやき伸び

行き交う人の日傘となりぬ

大木 洋一

種を蒔く黄泉より見よと幾度でも

ひまわりの花吾子に拝ぐ

内藤喜代美

垣根ごし隣家のバラも葉が落ちて

夏の終りか花一輪咲く

川手 芳

枕辺の色とりどりの朝顔は

猛暑に負けず元気をくれし

伊藤 英子

見た目には地味な感じの花なれど

白粉花は今真っ盛り

小川 一夫

朝採りの西瓜の玉をめてるがに

夫の頭の玉の汗ふく

鈴木 志子

炎天の昼間の卓に並びたる

冷しトマトのあの酸っぱさよ

宇野とし子

川口城司 推薦

藪に鳴くうぐひすに意気貫ひ込み

足取り軽く今日の散策

渡辺 重雄

棲みつし雀の糞の数多なる

軒下掃除が日課となりぬ

稲葉 雪子

俳句

高安せい子 推薦

天井に影ゆらゆらと走馬灯

南部ふうりん父のこと兄のこと

岩井 やす

魚跳ぶ音の重しや残暑光

野菊の径通りて母よ帰りませ

光瀬甲江子

手を合わせそっと弔う大文字

震災日火の粉も見えしと語る祖母

浮雲は今日も親子で散歩する

高木 芳夫

川口城司 推薦

稲刈りや猛暑を過る秋の風

炎天下照らされ揺れる千羽鶴

伊藤 定子

黄昏の木の間木の間に虫のこゑ

川柳

勝又康之 推薦

生き生きとテレビ体操リズム乗る

美智子妃の結婚式が初テレビ

岡田けい子

猛暑日のテレビ消さずに昼寝する

朝刊で先ず目を通すテレビ欄

江波戸京子

涼しさをテレビで感ず滝画面

独り者テレビがあつて楽しめる

宮崎 賢一

川口城司 推薦

家のネコ自分が主人と思つてる

石田 津

力作募集中

宛先：匝瑳市秘書課広報広聴班 〒289-12198 匝瑳市八日市場ハ793番地2
☎73-0080 FAX72-1114

図書館だより

図書館ホームページはコチラ
<https://www.library.sosa.chiba.jp>



●休館日…1日(木)・毎週月曜日

●開館八日市場図書館 ☎73-3746 (17時まで)

読書週間

10月27日から11月9日まで(文化の日を中心にした2週間)は「読書週間」です。

読書週間は、終戦の2年後の1947年(昭和22年)11月、「読書の力によって、平和な文化国家をつくろう」という決意のもとで始まりました。第



74回となる今年の標語は「ラストページまで駆け抜けて」です。

また、読書週間の初日でもある10月27日は、「文字・活字文化の日」です。これは、国民の間に広く文字・活字文化についての関心と理解を深めることを目的として、2005年(平成17年)7月に制定されました。

読書の秋に、図書館で活字に触れてみませんか!

おはなし会はお休みします

「おはなし会」は当面の間お休みします。再開は、図書館ホームページでお知らせします

おすすめの本

『宮沢賢治の地学読本』

宮沢賢治/作 柴山元彦/編 創元社

文学者として有名な宮沢賢治は、もともと地学の教師でもありました。

地学的な知識や表現がちりばめられた作品の中から、地学的に優れた5作品を選び、詳しく解説しています。『宮沢賢治の地学教室』『宮沢賢治の地学実習』もあわせてどうぞ。

『ベスト・エッセイ2020』

日本文藝家協会/編 光村図書出版

新聞・雑誌などで発表された数多くのエッセイの中から77編を選んでまとめたエッセイ集です。角田光代、藤沢周など77人の文筆家によるエッセイをご堪能ください。